

栃木県埋蔵文化財調査報告第 308 集

峰 高 前 遺 跡

—北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅷ—

2007. 9

栃 木 県 教 育 委 員 会
(財) とちぎ生涯学習文化財団

みね たか まえ

峰 高 前 遺 跡

—北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅷ—

2007. 9

栃 木 県 教 育 委 員 会
(財) とちぎ生涯学習文化財団



蜂高朝道跡 調査区合成写真



遺跡通景（北上空から 正面が筑波山）



SI-05 北西柱穴 土師器甕出土状況

基本層序（SE-365）

序

峰高前遺跡は、栃木県南東部の二宮町物井地区に位置します。物井地区は、八溝山麓の西側を南流する小貝川と五行川が潤す緑豊かな平地であり、二宮尊徳の活躍の舞台となった桜町陣屋跡を始めとし、先人たちの足跡が多く残る土地でもあります。

このたび、北関東自動車道建設に伴い、路線内に所在する峰高前遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなりました。

調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡や出土品が確認され、当時の集落の様相が明らかになりました。これらの調査結果は、同じ路線内で隣接する西物井遺跡や曲田遺跡の調査成果とともに、物部地区の歴史を明らかにする上で、貴重な資料となるものです。

本報告書は、この調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助となるとともに、各方面において広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なご協力をいただきました東日本高速道路株式会社、二宮町教育委員会、栃木県県土整備部をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成 19 年 9 月

栃木県教育委員会

教育長 平 間 幸 男

例言

1. 本書は、栃木県芳賀郡二宮町大字物井地内に所在する峰高前遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北関東自動車道（上三川～二宮地区）建設に伴う記録保存調査であり、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもと、財団法人とちぎ生涯学習文化財埋蔵文化財センターが実施した。
3. 本遺跡の調査期間及び調査担当者は以下の通りである。

平成 12 年度	（確認調査）	平成 13 年 1 月 15 日～平成 13 年 3 月 23 日
	主査 進藤 敏雄	主任 安永 真一
平成 13 年度	（本調査）	平成 13 年 4 月 1 日～平成 13 年 11 月 30 日
	総括 藤田 典夫	主査 森口 尚志
	主任 仲山 英樹	主任 安永 真一
	技師 合田恵美子	主事 吉村 英子
	調査補助員 塀 陽子	
平成 14 年度	（本調査）	平成 14 年 4 月 1 日～平成 14 年 6 月 30 日
	総括 藤田 典夫	主査 西田 知生
	主任 安永 真一	技師 合田恵美子
	調査補助員 平山 紋子	
	（本調査）	平成 14 年 10 月 1 日～平成 14 年 12 月 28 日
	（試掘調査）	平成 14 年 12 月 1 日～平成 14 年 12 月 28 日
	主査 西田 知生	主任 江原 英
	技師 合田恵美子	
平成 15 年度	（本調査）	平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日
	主査 賀川 倫夫	技師 合田恵美子
	主事 吉村 英子	
	調査補助員 玉橋さやか	平山 紋子
	（整理作業）	平成 15 年 10 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日
	技師 合田恵美子	
平成 16 年度	（整理作業）	平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日
	係長 藤田 典夫	技師 合田恵美子
平成 17 年度	（本調査）	平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 6 月 30 日
	主任 宮田 宣浩	主任 合田恵美子
平成 18 年度	（整理作業）	平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日
	主任 合田恵美子	
平成 19 年度	（整理作業・報告書作成）	平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 28 日
	主任 合田恵美子	

4. 本書の作成・執筆・編集は合田恵美子が担当した。
5. 自然科学分析については株式会社パレオ・ラボに委託し、その結果を付章に掲載した。
6. 写真撮影は発掘調査における遺構を各担当者が行い、金属製品以外の遺物を栃木産業株式会社に委託した。
7. 航空写真撮影は中央航業株式会社に委託した。
8. 金属製品の保存処理、X線撮影、写真撮影は車塚哲久が行った。
9. 発掘調査の実施ならびに報告書の作成にあたっては、次の方々から御指導、御協力を賜った。

東日本高速道路株式会社関東第二支社宇都宮工事事務所（旧日本道路公団東京建設局宇都宮工事事務所）、
栃木県教育委員会事務局文化財課、栃木県県土整備部（旧県土本部）交通政策課高速道路対策室、栃木県土
地開発公社、二宮町教育委員会、二宮町史編さん室

秋元陽光 安永真一 松本 悟 橋本好造 浪江健雄 小野里一 舘美賢吾（順不同、敬称略）

10. 遺跡の概要は年報等で一部公表されているが、本書を正報告とする。

11. 本遺跡の出土遺物、資料類は財団法人とちぎ生涯学習文化財館埋蔵文化財センターに保管している。

12. 発掘調査及び整理・報告書作成の参加者は以下の通りである。

（発掘作業員）小菅千枝子、本田マチ子、石崎正則、佐藤ミツイ、上野美知子、村上桂子、大川モンラッチャー、浅香義房、宮田 哲、中野康一、塩田 剛、池田京子、上野京子、中山智夫、野原登志寿、石川有孝、小池正昭、豊田一夫、関口とも子、上村文恵、保坂房子、廣沢久美子、小堀里子、小堀不二夫、小貫 宏、高久法子、和久則子、仙波美枝、関口フミ子、関口由紀子、藤沢ミイ子、鈴木節子、藤沢信吉、矢板橋金作、羽鳥敏子、浅香ツヤ、岩瀬光枝、増田晋一、吉田満男、和島智子、上野礼子、豊田トモ、松本繁雄、

上野広勝、大石政延、飯島征夫、郷上恵子、千葉文枝、橋本 織、武田恵津子、稲葉信子、岩崎美枝子、児玉祐美子、児玉真澄、竹下郁代、坂本淳子、古谷野安子、大福地時治、柳田喜三、樋口五男、山崎正夫、野沢 勇、石川貴志、柴山莊一、中里海吉、石田伸枝、山田友子

（整理作業員）鮎川恵子、岡本 恵、小林由美子、広沢邦子、鈴木節子、平石裕子、上野弘美、増淵幸枝、鶴澤房子、上野真知永、大友弓子、野沢光美、稲葉信子、柳田宗子

（整理補助員）筑井くみこ、引地千佳子、野口美智子、米野裕子、石田静枝、野口 貞、磯野実枝子、横田通子

凡例

1 本遺跡の略号は NM-MT である。

2 遺構の略号は、竪穴住居跡：S1、掘立柱建物跡：SB、溝状遺構：SD、井戸状遺構：SE、土坑：SK、ピット状遺構：S、円形溝状遺構・性格不明遺構：SX とし、発掘調査時に遺構の種類にかかわらず 01、02、03・・・とつけており、本報告でもこれを用いている。

3 遺構の縮尺は、実測図中にスケールで示した。原則として 1/60 であるが、竪穴住居跡のカマドは 1/30 を用いている。また、溝状遺構および時期不明の遺構は 1/80、1/100、1/200 としている。

4 遺構図中の方位は、日本国家座標IX系に基づいている。これは、最初に調査を行った平成 13 年度に使用した座標系を踏襲したためである。セクション・エレベーション図の断面水準は海拔標高である。

5 土層説明のうち、含有物の量は「極多量」「多量」「やや多量」「やや少量」「少量」「極少量」の 6 段階で示した。遺構一覧表の中での略号は、ローム粒＝LP、ロームブロック＝LB、焼土粒＝焼P、炭化物粒＝炭P、白色粒＝白P である。

6 実測図中のトーンは以下の通りである。

（遺構）・・・地山 ・・・粘土 ・・・焼土・被熱範囲 ・・・炭化材

（遺物）・・・付着物 ・・・内面黒色処理

7 実測図の縮尺は土師器・須恵器・瓦・礫：1/4、石製品・土製品・金属製品：1/2、縄文土器：1/3、石器：2/3 とし、図中にスケールで示した。

8 遺物実測図中の遺物番号は、遺物実測図及び遺物観察表の番号と一致する。

9 実測図の断面は須恵器が黒塗り、鉄製品は斜線、その他は白抜きとした。

10 遺物観察表中の計測値は以下の通りである。金属製品の重量は、処理後の計測値である。

径・長さ・幅さ・厚さ…（ ）復元値 [] 残存値 高さ…（ ）残存値

11 遺構一覧表中の計測値は以下の通りである。（ ）残存値

目次

巻頭図版	
序	
例言	
凡例	
第1章	調査の経緯
第1節	調査に至る経緯 1
第2節	調査の経過と方法 5
	(1) 確認調査の経過 (2) 発掘調査の方法
	(3) 発掘調査(本調査)の経過 (4) 整理作業の経過
第2章	遺跡の環境
第1節	地理的環境 11
第2節	歴史的環境 13
第3章	発見された遺構と遺物
第1節	調査の概要と基本土層 18
第2節	古墳～平安時代の遺構と遺物 21
	(1) 竪穴住居跡 (2) 掘立柱建物跡
	(3) 円形周溝遺構 (4) 井戸状遺構
	(5) 土坑 (6) ビット状遺構
	(7) その他の遺構 (8) 遺構外出土の遺物
第3節	中世・近世の遺構と遺物 365
	(1) 溝状遺構 (2) 井戸状遺構・円筒形土坑 (3) 土坑
第4節	時期不明の遺構 409
	(1) 掘立柱建物跡 (2) 土坑・小ビット
第5節	低地の調査 439
	(1) 低地A (2) 低地B (3) 低地C
第6節	旧石器・縄文時代の遺構と遺物 457
	(1) 旧石器時代の遺物 (2) 縄文時代の遺構と遺物
第4章	調査の成果
第1節	古墳時代～平安時代の遺構と遺物 468
第2節	中世・近世の遺構と遺物 478
付 章	自然科学分析
第1節	SI-04 竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定 483
第2節	峰高前遺跡におけるテフラ検出分析 488
第3節	珪藻分析 492
写真図版	

挿図目次

第1図	北関東自動車道(上三川～二宮間)関連の遺跡	2	第52図	SI-17・58 竪穴住居跡	73
第2図	峰高前遺跡調査区の位置	5	第53図	SI-17・58 竪穴住居跡(2)	74
第3図	峰高前遺跡調査区およびトレンチ配置図	6	第54図	SI-17・58 出土遺物	74
第4図	グリッド基準図	7	第55図	SI-18 竪穴住居跡(1)	75
第5図	峰高前遺跡の位置	11	第56図	SI-18 竪穴住居跡(2)	76
第6図	周辺の地形図	12	第57図	SI-18 出土遺物	76
第7図	周辺の遺跡分布図	14	第58図	SI-19 竪穴住居跡(1)	78
第8図	台地部分の基本土層	19	第59図	SI-19 竪穴住居跡(2)	79
第9図	古墳～平安時代の遺構	20	第60図	SI-19 出土遺物(1)	79
第10図	SI-01 竪穴住居跡	22	第61図	SI-19 出土遺物(2)	80
第11図	SI-01 出土遺物	23	第62図	SI-20 竪穴住居跡および出土遺物	82
第12図	SI-02 竪穴住居跡(1)	24	第63図	SI-21 竪穴住居跡	83
第13図	SI-02 竪穴住居跡(2)	25	第64図	SI-21 出土遺物	84
第14図	SI-02 出土遺物	26	第65図	SI-22 竪穴住居跡および出土遺物	86
第15図	SI-03 竪穴住居跡	29	第66図	SI-23 竪穴住居跡	87
第16図	SI-03 出土遺物	30	第67図	SI-23 出土遺物	87
第17図	SI-04 竪穴住居跡	32	第68図	SI-24 竪穴住居跡	88
第18図	SI-04 出土遺物	33	第69図	SI-25 竪穴住居跡及び出土遺物	89
第19図	SI-05 竪穴住居跡(1)	35	第70図	SI-26・SI-27 竪穴住居跡	90
第20図	SI-05 竪穴住居跡(2)	36	第71図	SI-26 出土遺物	91
第21図	SI-05 出土遺物	36	第72図	SI-27 出土遺物	92
第22図	SI-06 竪穴住居跡(1)	38	第73図	SI-28・SI-54 竪穴住居跡(1)	93
第23図	SI-06 竪穴住居跡(2)	39	第74図	SI-28・SI-54 竪穴住居跡(2)	94
第24図	SI-06 出土遺物	39	第75図	SI-28・SI-54 出土遺物	94
第25図	SI-07 竪穴住居跡	41	第76図	SI-29 竪穴住居跡(1)	96
第26図	SI-07 出土遺物	42	第77図	SI-29 竪穴住居跡(2)	97
第27図	SI-08 竪穴住居跡(1)	43	第78図	SI-29 竪穴住居跡(3)	98
第28図	SI-08 竪穴住居跡(2)	44	第79図	SI-29 出土遺物(1)	98
第29図	SI-08 出土遺物(1)	44	第80図	SI-29 出土遺物(2)	99
第30図	SI-08 出土遺物(2)	45	第81図	SI-29 出土遺物(3)	100
第31図	SI-09 竪穴住居跡	48	第82図	SI-30 竪穴住居跡	103
第32図	SI-09 出土遺物	49	第83図	SI-30 出土遺物	104
第33図	SI-10 竪穴住居跡	50	第84図	SI-31 竪穴住居跡(1)	106
第34図	SI-10 出土遺物	51	第85図	SI-31 竪穴住居跡(2)	107
第35図	SI-11 竪穴住居跡(1)	54	第86図	SI-31 出土遺物	107
第36図	SI-11 竪穴住居跡(2)	55	第87図	SI-32 竪穴住居跡(1)	109
第37図	SI-11 出土遺物	56	第88図	SI-32 竪穴住居跡(2)	110
第38図	SI-12 竪穴住居跡	58	第89図	SI-32 出土遺物	110
第39図	SI-12 出土遺物	58	第90図	SI-33 竪穴住居跡および出土遺物	112
第40図	SI-13 竪穴住居跡(1)	60	第91図	SI-34 竪穴住居跡(1)	114
第41図	SI-13 竪穴住居跡(2)	61	第92図	SI-34 竪穴住居跡(2)	115
第42図	SI-13 出土遺物	61	第93図	SI-34 出土遺物(1)	115
第43図	SI-14 竪穴住居跡(1)	63	第94図	SI-34 出土遺物(2)	116
第44図	SI-14 竪穴住居跡(2)	64	第95図	SI-34 出土遺物(3)	117
第45図	SI-14 出土遺物(1)	64	第96図	SI-35 竪穴住居跡(1)	121
第46図	SI-14 出土遺物(2)	65	第97図	SI-35 竪穴住居跡(2)	122
第47図	SI-14 出土遺物(3)	66	第98図	SI-35 出土遺物	122
第48図	SI-15 竪穴住居跡	69	第99図	SI-36 竪穴住居跡	124
第49図	SI-15 出土遺物	69	第100図	SI-36 出土遺物	125
第50図	SI-16 竪穴住居跡	71	第101図	SI-38 竪穴住居跡(1)	126
第51図	SI-16 出土遺物	71	第102図	SI-38 竪穴住居跡(2)	127

第 103 図	SI-38 出土遺物	127	第 155 図	SI-71 出土遺物	188
第 104 図	SI-38 出土遺物	128	第 156 図	SI-72 竪穴住居跡	190
第 105 図	SI-39 竪穴住居跡および出土遺物	130	第 157 図	SI-72 出土遺物	191
第 106 図	SI-40 竪穴住居跡 (1)	132	第 158 図	SI-73 竪穴住居跡 (1)	192
第 107 図	SI-40 竪穴住居跡 (2)	133	第 159 図	SI-73 竪穴住居跡 (2)	193
第 108 図	SI-40 出土遺物	134	第 160 図	SI-73 出土遺物	193
第 109 図	SI-41 竪穴住居跡	135	第 161 図	SI-74 竪穴住居跡 (1)	195
第 110 図	SI-41 出土遺物	135	第 162 図	SI-74 竪穴住居跡 (2)	196
第 111 図	SI-42 竪穴住居跡 (1)	137	第 163 図	SI-74 竪穴住居跡 (3)	197
第 112 図	SI-42 出土遺物	137	第 164 図	SI-74 出土遺物	197
第 113 図	SI-42 竪穴住居跡 (2)	138	第 165 図	SI-75 竪穴住居跡	199
第 114 図	SI-32 竪穴住居跡 (1)	140	第 166 図	SI-75 出土遺物	200
第 115 図	SI-44 竪穴住居跡 (2)	141	第 167 図	SI-76 竪穴住居跡	201
第 116 図	SI-44 出土遺物 (1)	141	第 168 図	SI-76 出土遺物	202
第 117 図	SI-44 出土遺物 (2)	142	第 169 図	SI-77 竪穴住居跡	203
第 118 図	SI-45 竪穴住居跡	146	第 170 図	SI-77 出土遺物	204
第 119 図	SI-45 出土遺物 (1)	147	第 171 図	SI-78 竪穴住居跡	204
第 120 図	SI-45 出土遺物 (2)	148	第 172 図	SI-88 竪穴住居跡 (1)	206
第 121 図	SI-46 竪穴住居跡	150	第 173 図	SI-88 竪穴住居跡 (2)	207
第 122 図	SI-46 出土遺物	151	第 174 図	SI-88 竪穴住居跡 (3)	207
第 123 図	SI-47 竪穴住居跡	153	第 175 図	SI-88 出土遺物	208
第 124 図	SI-47 出土遺物	154	第 176 図	SI-89 竪穴住居跡 (1)	211
第 125 図	SI-48 竪穴住居跡	155	第 177 図	SI-89 竪穴住居跡 (2)	212
第 126 図	SI-49 竪穴住居跡	156	第 178 図	SI-89 竪穴住居跡 (3)	213
第 127 図	SI-50 竪穴住居跡	157	第 179 図	SI-89 出土遺物 (1)	213
第 128 図	SI-50 カマドおよび出土遺物	157	第 180 図	SI-89 出土遺物 (1)	214
第 129 図	SI-51・52 竪穴住居跡	159	第 181 図	SI-90 竪穴住居跡および出土遺物	216
第 130 図	SI-51 出土遺物	159	第 182 図	SI-91 竪穴住居跡	217
第 131 図	SI-55 竪穴住居跡	160	第 183 図	SI-91 出土遺物	218
第 132 図	SI-56・57 竪穴住居跡	161	第 184 図	SI-92 竪穴住居跡 (1)	219
第 133 図	SI-56 カマドおよび出土遺物	162	第 185 図	SI-92 竪穴住居跡 (2)	220
第 134 図	SI-57 出土遺物	162	第 186 図	SI-92 出土遺物	220
第 135 図	SI-59 竪穴住居跡	164	第 187 図	SI-95 竪穴住居跡 (1)	222
第 136 図	SI-59 出土遺物	165	第 188 図	SI-95 竪穴住居跡 (2)	223
第 137 図	SI-61 竪穴住居跡および出土遺物	167	第 189 図	SI-95 出土遺物	223
第 138 図	SI-62 竪穴住居跡および出土遺物	168	第 190 図	SI-96 竪穴住居跡	224
第 139 図	SI-65 竪穴住居跡	169	第 191 図	SI-1000 竪穴住居跡 (1)	225
第 140 図	SI-65 カマドおよび出土遺物	171	第 192 図	SI-1000 竪穴住居跡 (2)	226
第 141 図	SI-66 竪穴住居跡および出土遺物	173	第 193 図	SI-1000 出土遺物	226
第 142 図	SI-67a 竪穴住居跡	175	第 194 図	SI-1001 竪穴住居跡 (1)	228
第 143 図	SI-67b 竪穴住居跡	176	第 195 図	SI-1001 竪穴住居跡 (2)	229
第 144 図	SI-67c 竪穴住居跡	177	第 196 図	SI-1001 竪穴住居跡 (3)	230
第 145 図	SI-67 出土遺物	177	第 197 図	SI-1001 出土遺物 (1)	231
第 146 図	SI-68 竪穴住居跡	179	第 198 図	SI-1001 出土遺物 (2)	232
第 147 図	SI-68 出土遺物	180	第 199 図	SI-1001 出土遺物 (3)	233
第 148 図	SI-69 竪穴住居跡 (1)	181	第 200 図	SI-1002 竪穴住居跡 (1)	237
第 149 図	SI-69 竪穴住居跡 (2)	182	第 201 図	SI-1002 竪穴住居跡 (1)	238
第 150 図	SI-70 竪穴住居跡 (1)	183	第 202 図	SI-1002 出土遺物	238
第 151 図	SI-70 竪穴住居跡 (2)	184	第 203 図	SI-1003 竪穴住居跡	241
第 152 図	SI-70 出土遺物	185	第 204 図	SI-1003 出土遺物	242
第 153 図	SI-71 竪穴住居跡 (1)	187	第 205 図	SI-1010 竪穴住居跡 (1)	243
第 154 図	SI-71 竪穴住居跡 (2)	188	第 206 図	SI-1010 カマドおよび出土遺物	244

第 207 図	SI-1004 竪穴住居跡	245	第 259 図	SI-1302 竪穴住居跡	313
第 208 図	SI-1004 出土遺物	246	第 260 図	SI-1302 出土遺物	313
第 209 図	SI-1005 竪穴住居跡 (1)	248	第 261 図	SI-1303 竪穴住居跡	315
第 210 図	SI-1005 竪穴住居跡 (2)	249	第 262 図	SI-1303 出土遺物	316
第 211 図	SI-1005 出土遺物	249	第 263 図	SI-1304 竪穴住居跡	317
第 212 図	SI-1006 竪穴住居跡 (1)	251	第 264 図	SI-1304 出土遺物	318
第 213 図	SI-1006 竪穴住居跡 (2)	252	第 265 図	SI-1305 竪穴住居跡	320
第 214 図	SI-1006 出土遺物	252	第 266 図	SI-1305 カマド	320
第 215 図	SI-1007 竪穴住居跡	254	第 267 図	SI-1305 床下土坑	321
第 216 図	SI-1007 出土遺物	255	第 268 図	SI-1305 出土遺物	321
第 217 図	SI-1009 竪穴住居跡 (1)	257	第 269 図	SB-63 竪立柱建物跡および出土遺物	322
第 218 図	SI-1009 竪穴住居跡 (2)	258	第 270 図	SB-82 竪立柱建物跡	323
第 219 図	SI-1009 出土遺物 (1)	258	第 271 図	SB-83 竪立柱建物跡	324
第 220 図	SI-1009 出土遺物 (2)	259	第 272 図	SB-84 竪立柱建物跡	324
第 221 図	SI-1014 竪穴住居跡 (1)	263・264	第 273 図	SB-86 竪立柱建物跡および出土遺物	325
第 222 図	SI-1014 竪穴住居跡 (2)	265	第 274 図	SB-87 竪立柱建物跡および出土遺物	326
第 223 図	SI-1014 竪穴住居跡 (3)	266	第 275 図	SB-97 竪立柱建物跡および出土遺物	328
第 224 図	SI-1014 竪穴住居跡 (4)	267	第 276 図	SB-98 竪立柱建物跡	329
第 225 図	SI-1014 出土遺物 (1)	267	第 277 図	SB-98 出土遺物	330
第 226 図	SI-1014 出土遺物 (2)	268	第 278 図	SB-1008・1012 竪立柱建物跡	331
第 227 図	SI-1014 出土遺物 (3)	269	第 279 図	SB-1008 出土遺物	332
第 228 図	SI-1014 出土遺物 (4)	270	第 280 図	SB-1021 竪立柱建物跡	333
第 229 図	SI-1015 竪穴住居跡 (1)	276	第 281 図	SB-1022 竪立柱建物跡	334
第 230 図	SI-1015 竪穴住居跡 (2)	277	第 282 図	SB-1026 竪立柱建物跡	335
第 231 図	SI-1015 竪穴住居跡 (3)	278	第 283 図	SB-1027 竪立柱建物跡	336
第 232 図	SI-1015 出土遺物 (1)	278	第 284 図	SB-1028 竪立柱建物跡	337
第 233 図	SI-1015 出土遺物 (2)	279	第 285 図	SB-1028 出土遺物	338
第 234 図	SI-1016 竪穴住居跡	283	第 286 図	SB-1029 竪立柱建物跡および出土遺物	338
第 235 図	SI-1016 出土遺物	284	第 287 図	SX-1190 円形周溝遺構	340
第 236 図	SI-1017 竪穴住居跡	285	第 288 図	SX-1190 出土遺物	341
第 237 図	SI-1017 出土遺物	286	第 289 図	井戸状遺構 (1)	344
第 238 図	SI-1018 竪穴住居跡 (1)	288	第 290 図	井戸状遺構 (2)	346
第 239 図	SI-1018 竪穴住居跡 (2)	289	第 291 図	井戸状遺構 (3) SX-99	348
第 240 図	SI-1018 出土遺物	289	第 292 図	井戸状遺構 (4)	350
第 241 図	SI-1019 竪穴住居跡	291	第 293 図	井戸状遺構出土遺物	351
第 242 図	SI-1019 出土遺物 (1)	292	第 294 図	SK-1037	352
第 243 図	SI-1019 出土遺物 (2)	293	第 295 図	SK-1037 出土遺物	353
第 244 図	SI-1020 竪穴住居跡 (1)	297	第 296 図	SK-1216・1224・1234	355
第 245 図	SI-1020 竪穴住居跡 (2)	298	第 297 図	SK-1216・1224・1234 出土遺物	355
第 246 図	SI-1020 出土遺物	298	第 298 図	SK-571・780・790・1160・1238	356
第 247 図	SI-1023 竪穴住居跡	300	第 299 図	SK-789 出土遺物	356
第 248 図	SI-1023 出土遺物	301	第 300 図	SK-571・1160・1238 出土遺物	357
第 249 図	SI-1024 竪穴住居跡	302	第 301 図	S-770・1325	358
第 250 図	SI-1024 出土遺物	303	第 302 図	S-770・1325 出土遺物	359
第 251 図	SI-1025 竪穴住居跡	305	第 303 図	SX-43 竪穴遺構	360
第 252 図	SI-1025 出土遺物	306	第 304 図	SX-43 出土遺物	361
第 253 図	SI-1301a 竪穴住居跡	307	第 305 図	SX-1246 竪穴遺構	362
第 254 図	SI-1301a 出土遺物 (1)	308	第 306 図	SX-1246 出土遺物	362
第 255 図	SI-1301a 出土遺物 (2)	309	第 307 図	遺構外出土遺物	363
第 256 図	SI-1301b 竪穴住居跡 (1)	311	第 308 図	中世・近世遺構全体図 (S=1/1,000)	366
第 257 図	SI-1301b 竪穴住居跡出土遺物	311	第 309 図	SD-101・103・361・362 溝状遺構	367
第 258 図	SI-1301b 竪穴住居跡 (2)	312	第 310 図	SD-101・103・361 出土遺物	368

第311図	SD-102・106 溝状遺構(1) ……………	370	第363図	時期不明の遺構区分図(3) ……………	432
第312図	SD-102・106 溝状遺構(2) ……………	371	第364図	時期不明の遺構区分図(4) ……………	433
第313図	SD-102・106 溝状遺構新旧関係 ……………	372	第365図	時期不明の遺構区分図(5) ……………	434
第314図	SD-102・106 出土遺物(1) ……………	373	第366図	時期不明の遺構区分図(6) ……………	435
第315図	SD-102・106 出土遺物(2) ……………	374	第367図	時期不明の遺構区分図(7) ……………	436
第316図	SD-112・113・154 溝出土遺物 ……………	378	第368図	時期不明の遺構区分図(8) ……………	437
第317図	SD-1050・114・1187・1310 溝状遺構(1) ……	379	第369図	時期不明の遺構 掲載図版位置図 ……………	438
第318図	SD-1050・114・1187・1310 溝状遺構(2) ……	380	第370図	低地の概要 ……………	439
第319図	SD-1050・1187 出土遺物 ……………	381	第371図	低地の基本土層 ……………	440
第320図	SD-140・148・518・136・137・530・118 溝状遺構 ……	384	第372図	低地Aの土層堆積状況 ……………	440
第321図	SD-140・148・518・136・137・530・118 出土遺物 ……	385	第373図	低地A遺構外出土遺物 ……………	441
第322図	SD-1259・1260 および出土遺物 ……………	387	第374図	低地B全体図 ……………	445
第323図	SD-600・973 溝状遺構(1) ……………	389	第375図	低地Bビット状遺構及び出土遺物 ……………	446
第324図	SD-600・973 溝状遺構(2) ……………	390	第376図	SX-970・971 遺物集中 ……………	447
第325図	SD-600・973 溝状遺構(3) ……………	391	第377図	SX-970・971 出土遺物 ……………	447
第326図	SD-600 出土遺物(1) ……………	392	第378図	低地B遺構外出土遺物 ……………	449
第327図	SD-600 出土遺物(2) ……………	393	第379図	低地C全体図 ……………	451
第328図	SD-600 出土遺物(3) ……………	394	第380図	SD-389・390・613 溝状遺構 ……………	452
第329図	SD-973・SX-53 出土遺物 ……………	394	第381図	SD-390 出土遺物 ……………	453
第330図	SK-331・SE-590・591 ……………	402	第382図	低地Cの遺構(1) ……………	453
第331図	SE-590・591 出土遺物 ……………	402	第383図	S-587 出土遺物 ……………	453
第332図	SK-283・364・365・1206・1207・1211 ……………	403	第384図	低地Cの遺構(1) ……………	454
第333図	SK-283・365・1206 出土遺物 ……………	403	第385図	低地C遺構外出土遺物 ……………	455
第334図	SK-593 および出土遺物 ……………	406	第386図	旧石器時代の遺物 ……………	457
第335図	SK-60・353 ……………	407	第387図	SK-1371 陥穴状遺構 ……………	458
第336図	SK-1188 および出土遺物 ……………	408	第388図	縄文時代の遺物 ……………	459
第337図	SB-79 掘立柱建物跡 ……………	409	第389図	峰高前遺跡 土師器環型変遷図 ……………	469
第338図	SB-80 掘立柱建物跡 ……………	410	第390図	峰高前遺跡 土師器甕型変遷図 ……………	470
第339図	SB-81 掘立柱建物跡 ……………	410	第391図	峰高前遺跡 集落変遷図(1) ……………	472
第340図	SB-85 掘立柱建物跡 ……………	411	第392図	峰高前遺跡 集落変遷図(2) ……………	473
第341図	SB-1011 掘立柱建物跡 ……………	411	第393図	峰高前遺跡 集落変遷図(3) ……………	474
第342図	SB-1013 掘立柱建物跡 ……………	412	第394図	内面に沈殿を有する環 ……………	476
第343図	SK-37 土坑及び出土遺物 ……………	413	第395図	外面無調整の環 ……………	477
第344図	SK-906・1372 ……………	413	第396図	古墳時代前期の集落 ……………	478
第345図	時期不明の遺構(1) ……………	414	第397図	地傾と溝状遺構の関係 ……………	480
第346図	時期不明の遺構(2) ……………	415			
第347図	時期不明の遺構(3) ……………	416			
第348図	時期不明の遺構(4) ……………	417			
第349図	時期不明の遺構(5) ……………	418			
第350図	時期不明の遺構(6) ……………	419			
第351図	時期不明の遺構(7) ……………	420			
第352図	時期不明の遺構(8) ……………	421			
第353図	時期不明の遺構(9) ……………	422			
第354図	時期不明の遺構(10) ……………	423			
第355図	時期不明の遺構(11) ……………	424			
第356図	時期不明の遺構(12) ……………	425			
第357図	時期不明の遺構(13) ……………	426			
第358図	時期不明の遺構(14) ……………	427			
第359図	時期不明の遺構(15) ……………	428			
第360図	H14 年度試掘調査区の遺構 ……………	429			
第361図	時期不明の遺構区分図(1) ……………	430			
第362図	時期不明の遺構区分図(2) ……………	431			

表目次

第1表	北関東自動車道(上三川～二宮間) 埋蔵文化財発掘調査箇所一覧	3	第50表	SI-51 遺物観察表	159
第2表	平成12年度確認トレンチ概要	7	第51表	SI-56 遺物観察表	162
第3表	平成14年度試掘トレンチ概要	7	第52表	SI-57 遺物観察表	162
第4表	周辺道路一覧表	16・17	第53表	SI-59 遺物観察表	165・166
第5表	SI-01 遺物観察表	23	第54表	SI-61 遺物観察表	167
第6表	SI-02 遺物観察表	27・28	第55表	SI-62 遺物観察表	168
第7表	SI-03 遺物観察表	30	第56表	SI-65 遺物観察表	172
第8表	SI-04 遺物観察表	33・34	第57表	SI-66 遺物観察表	172
第9表	SI-05 遺物観察表	37	第58表	SI-67 遺物観察表	178
第10表	SI-06 遺物観察表	40	第59表	SI-68 遺物観察表	180
第11表	SI-07 遺物観察表	42	第60表	SI-70 遺物観察表	186
第12表	SI-08 遺物観察表	45・46	第61表	SI-71 遺物観察表	188
第13表	SI-09 遺物観察表	49	第62表	SI-72 遺物観察表	191
第14表	SI-10 遺物観察表	52	第63表	SI-73 遺物観察表	194
第15表	SI-11 遺物観察表	56・57	第64表	SI-74 遺物観察表	198
第16表	SI-12 遺物観察表	59	第65表	SI-75 遺物観察表	200
第17表	SI-13 遺物観察表	62	第66表	SI-76 遺物観察表	202
第18表	SI-14 遺物観察表	66～68	第67表	SI-77 遺物観察表	204
第19表	SI-15 遺物観察表	70	第68表	SI-88 遺物観察表	209
第20表	SI-16 遺物観察表	72	第69表	SI-89 遺物観察表	214・215
第21表	SI-17・58 遺物観察表	74	第70表	SI-90 遺物観察表	215
第22表	SI-18 遺物観察表	76	第71表	SI-91 遺物観察表	218
第23表	SI-19 遺物観察表	80・81	第72表	SI-92 遺物観察表	221
第24表	SI-20 遺物観察表	82	第73表	SI-95 遺物観察表	224
第25表	SI-21 遺物観察表	84・85	第74表	SI-1000 遺物観察表	227
第26表	SI-22 遺物観察表	86	第75表	SI-1001 遺物観察表	234～236
第27表	SI-23 遺物観察表	87	第76表	SI-1002 遺物観察表	239
第28表	SI-25 遺物観察表	89	第77表	SI-1003 遺物観察表	242
第29表	SI-26 遺物観察表	91	第78表	SI-1010 遺物観察表	243
第30表	SI-27 遺物観察表	92	第79表	SI-1004 遺物観察表	246
第31表	SI-28 遺物観察表	95	第80表	SI-1005 遺物観察表	250
第32表	SI-29 遺物観察表	101・102	第81表	SI-1006 遺物観察表	253
第33表	SI-30 遺物観察表	104・105	第82表	SI-1007 遺物観察表	255・256
第34表	SI-31 遺物観察表	108	第83表	SI-1009 遺物観察表	260・261
第35表	SI-32 遺物観察表	111	第84表	SI-1014 遺物観察表	271～274
第36表	SI-33 遺物観察表	113	第85表	SI-1015 遺物観察表	279～281
第37表	SI-34 遺物観察表	118	第86表	SI-1016 遺物観察表	284
第38表	SI-35 遺物観察表	123	第87表	SI-1017 遺物観察表	286・287
第39表	SI-36 遺物観察表	125	第88表	SI-1018 遺物観察表	290
第40表	SI-38 遺物観察表	128・129	第89表	SI-1019 遺物観察表	294～296
第41表	SI-39 遺物観察表	130	第90表	SI-1020 遺物観察表	299
第42表	SI-40 遺物観察表	134・135	第91表	SI-1023 遺物観察表	301
第43表	SI-41 遺物観察表	136	第92表	SI-1024 遺物観察表	303・304
第44表	SI-42 遺物観察表	138	第93表	SI-1025 遺物観察表	306
第45表	SI-44 遺物観察表	143・144	第94表	SI-1301 遺物観察表	309・310
第46表	SI-45 遺物観察表	148・149	第95表	SI-1301b 遺物観察表	311
第47表	SI-46 遺物観察表	151・152	第96表	SI-1302 遺物観察表	313・314
第48表	SI-47 遺物観察表	154	第97表	SI-1303 遺物観察表	316
第49表	SI-50 遺物観察表	158	第98表	SI-1304 遺物観察表	319
			第99表	SI-1305 遺物観察表	321

第100表	SB-63・87・97 遺物観察表	328	第120表	SX-53・SD-973 遺物観察表	400
第101表	SB-98・1008 遺物観察表	332	第121表	井戸状遺構・円筒形土坑遺物観察表	404
第102表	SB-1028 遺物観察表	338	第122表	SK-593 遺物観察表	407
第103表	SB-1029 遺物観察表	339	第123表	SK-1188 遺物観察表	408
第104表	SX-1190 遺物観察表	341	第124表	SK-37 遺物観察表	412
第105表	井戸状遺構遺物観察表	351	第125表	低地A 遺構外出土遺物観察表	442・443
第106表	SK-1037 遺物観察表	353・354	第126表	低地A 遺構外出土遺物破片数	443
第107表	SK-1216・1224・1234 遺物観察表	355	第127表	低地B 遺構外出土遺物破片数	444
第108表	SK-571・789・1160・1238 遺物観察表	357	第128表	S-649 遺物観察表 446 第129表 SX-971 遺物観察表	448
第109表	S-770・1325 遺物観察表	359	第130表	SX-970 遺物観察表	449
第110表	SX-43 遺物観察表	361	第131表	低地B 遺構外出土遺物観察表	450
第111表	SX-1246 遺物観察表	362	第132表	SD-390 遺物観察表	453
第112表	遺構外出土遺物観察表	363	第133表	低地C 遺構外出土遺物破片数	455
第113表	遺構外出土破片数一覧表	364	第134表	S-587・低地C 遺構外出土遺物観察表	456
第114表	SD-101・103・361 遺物観察表	368・369	第135表	縄文石器観察表	458
第115表	SD-102・106 遺物観察表	374～377	第136表	井戸状遺構・円筒形土坑ビット状遺構計測表	460
第116表	SD-112・113・154 遺物観察表	378	第137表	土坑・小ビット計測表	460～467
第117表	SD-1050・1187・1310 溝状遺構遺物観察表	382・383	第138表	竪穴住居跡時期別一覧表	468
第118表	SD-140・148・518・136・137・530・118・1259・1260 遺物観察表	385・386			
第119表	SD-600 遺物観察表	395～399			

写真図版目次

図版一 航空写真 道路遠望 (南東上空から 写真真岡市街)	SI-05・06・07 (南から)
道路遠望 (北西上空から 写真正面筑波山)	SI-08 (南から)
図版二 航空写真 平成13年度調査区 (北上空から)	SI-08 カマド出土状況 (南から)
平成14年度上半期調査区 (南上空から)	SI-09 (南から)
図版三 航空写真 平成14年度下半期調査区 (西上空から)	SI-09 カマド (南から)
平成15年度調査区 (西上空から)	図版八 遺構 (竪穴住居跡)
図版四 航空写真 低地C (南上空から)	SI-10 (南から)
低地B・SD-600 溝状遺構 (北上空から)	SI-10 カマド (南から)
図版五 遺構 (竪穴住居跡)	SI-11 (南から)
SI-01 (南から)	SI-11 張り出しビット (東から)
SI-01 カマド (南から)	SI-11 カマド (南から)
SI-02 (南から)	SI-11 旧カマド (南から)
SI-02 出土状況 (南西から)	SI-12 (南から)
SI-02 カマド (南から)	SI-12 カマド (南から)
SI-02 野蔵穴出土状況 (南から)	図版九 遺構 (竪穴住居跡)
SI-03 (南から)	SI-13 (南から)
SI-03 カマド (南から)	SI-13 カマド (南から)
図版六 遺構 (竪穴住居跡)	SI-14 (西から)
SI-04 (南から)	SI-14 カマド (南西から)
SI-04 カマド出土状況 (南から)	SI-15 (西から)
SI-04 炭化材出土状況 (南から)	SI-15 カマド (西から)
SI-04 炭化材 No.1 (西から)	SI-16 (南から)
SI-05 (南から)	SI-17 (南から)
SI-05 井戸 (南から)	図版一〇 遺構 (竪穴住居跡)
SI-05 北西柱穴出土状況 (南から)	SI-17 カマド (南から)
SI-05 北西柱穴断り割り (南から)	SI-17 双孔門盤出土状況 (西から)
図版七 遺構 (竪穴住居跡)	SI-18 (南から)
SI-06 (南から)	SI-18 カマド (南から)
SI-06 カマド (南から)	SI-19 (南から)
SI-07 (南から)	SI-19 カマド (南から)
	SI-19 出土状況 (南から)
	SI-19 棚状遺構 (西から)
	図版一一 遺構 (竪穴住居跡)
	SI-20 (東から)

SI-20 カマド (南から)
 SI-21 (南西から)
 SI-21 カマド (南西から)
 SI-21 出土状況 (南西から) SI-22 (南から)
 SI-22 カマド (南西から)
 SI-23・SI-102・106 重複断面 (南西から)
図版一 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-23 (南から)
 SI-23 カマド (南西から)
 SI-24 (南から)
 SI-24 カマド (南西から)
 SI-25 (南西から)
 SI-25 カマド (南から)
 SI-26 (南から)
 SI-26 カマド (南から)
図版一三 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-27 (南から)
 SI-28 (南から)
 SI-28 カマド (南から)
 SI-29a (南から)
 SI-29 カマド出土状況 (南東から)
 SI-29 カマド (南から)
 SI-29 出土状況 (西から)
 SI-29b (南から)
図版一四 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-30 (南から)
 SI-30 カマド (南から)
 SI-31 (西から)
 SI-31 カマド (西から)
 SI-32 (南から)
 SI-32 カマド (南から)
 SI-33 (南から)
 SI-33 カマド (南から)
図版一五 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-34 出土状況 (南東から)
 SI-34 カマド (南から)
 SI-34 (南から)
 SI-34P2 周辺出土状況 (南から)
 SI-35 (南から)
 SI-35 カマド (南から)
 SI-36 (南から)
 SI-36 カマド (南から)
図版一六 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-38 (南から)
 SI-38 カマド出土状況 (南から)
 SI-39 (南から)
 SI-39 カマド (南から)
 SI-40 (南から)
 SI-40 カマド (南から)
 SI-41 (南から)
 SI-41 カマド (南から)
図版一七 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-42 (東から)
 SI-42 カマド (南から)
 SI-44 (南から)
 SI-44 軒 (南から)
 SI-45 (南から)
 SI-45 カマド (南から)
 SI-46 (南から)
 SI-46 カマド (南から)
図版一八 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-47 (南から)
 SI-47 カマド (南から)
 SI-48 (南から)
 SI-49 (南から)
 SI-50 (南から)

SI-50 カマド (南西から)
 SI-51・52 (東から)
 SI-55 (南から)
図版一九 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-56 (南から)
 SI-56 カマド (南から)
 SI-57 (南東から)
 SI-58・17 (南西から)
 SI-59 (南から)
 SI-59 カマド (南から)
 SI-61 (南から)
 SI-62 (南から)
図版二〇 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-65 (南から)
 SI-65 カマド (南から)
 SI-66 (南から)
 平成 14 年度調査風景
 SI-67a (南から)
 SI-67 カマド (南から)
 SI-67b・c (南から)
 SI-68・69・72・73 (南から)
図版二一 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-68 (南から)
 SI-68 カマド (南から)
 SI-69 (南から)
 SI-69 カマド (南から)
 SI-70 (南から)
 SI-70 カマド (南から)
 SI-71 (南から)
 SI-71 カマド (南から)
図版二二 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-72 (南から)
 SI-72 カマド (南から)
 SI-73 (南から)
 SI-73 カマド (南から)
 SI-72・73 (南東から)
 SI-74 (南から)
 SI-74 カマド (南から)
 SI-75 (南から)
図版二三 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-76 (南から)
 SI-76 カマド (南から)
 SI-77 (南から)
 SI-77 カマド (南から)
 SI-88 (平成 15 年度調査) (南から)
 SI-88 (平成 14 年度調査) (南から)
 SI-88 カマド (南から)
 平成 15 年度調査参加者
図版二四 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-89a (平成 15 年度調査) (南から)
 SI-89a (平成 14 年度調査) (東から)
 SI-89b (南から)
 SI-89 カマド (南から)
 SI-90 (西から)
 SI-90 カマド (西から)
 SI-91 出土状況 (西から)
 SI-91 東壁粘土遺存状況 (西から)
図版二五 遺構 (竪穴住居跡)
 SI-92 (西から)
 SI-92 カマド (南から)
 SI-95 (南から)
 SI-95 カマド (南から)
 SI-96 (北から)
 平成 15 年度調査風景
 SI-1000 (南から)
 SI-1000 カマド (南から)

図版二六 遺構（竪穴住居跡）

- SI-1001 (南から)
- SI-1001 カマド (南から)
- SI-1002 (南から)
- SI-1002 カマド (南から)
- SI-1003 (南から)
- SI-1003 カマド (南から)
- SI-1010 (南から)
- SI-1010 カマド掘り方 (南から)
- 図版二七 遺構（竪穴住居跡）
- SI-1004 (南から)
- SI-1004 カマド (南から)
- SI-1005 出土状況 (南から)
- SI-1005 (南から)
- SI-1006 (南から)
- SI-1006 カマド (南から)
- SI-1007 (南から)
- SI-1007 カマド (南から)
- 図版二八 遺構（竪穴住居跡）
- SI-1009 (南から)
- SI-1009 (平成 17 年度調査部分・南から)
- SI-1009 カマド (南から)
- SI-1014・SX-1190 (南から)
- SI-1014 出土状況 (東から)
- SI-1014 カマド焚き口出土状況 (南から)
- SI-1014 貯蔵穴上面出土状況 (南西から)
- SI-1014 カマド・貯蔵穴 (南から)

図版二九 遺構（竪穴住居跡）

- SI-1014 入り口ピット (南から)
- SI-1015a (南から)
- SI-1015b (南から)
- SI-1015 カマド (南から)
- SI-1016 (南から)
- SI-1016 カマド (南から)
- SI-1017・1016 (南から)
- SI-1018 (南から)

図版三〇 遺構（竪穴住居跡）

- SI-1018 カマド出土状況 (南西から)
- SI-1018 カマド (南から)
- SI-1019 (南から)
- SI-1019 出土状況 (東から)
- SI-1020 (南から)
- SI-1020 カマド (南から)
- SI-1023 (平成 17 年度調査) (南から)
- SI-1023 (平成 15 年度調査) (東から)

図版三一 遺構（竪穴住居跡）

- SI-1023 カマド出土状況 (南から)
- SI-1024 出土状況 (南から)
- SI-1024 (西から)
- SI-1024 カマド出土状況 (西から)
- SI-1301a (南東から)
- SI-1301b (南から)
- SI-1301 カマド出土状況 (南から)
- SI-1301 掘り方 (南から)

図版三二 遺構（竪穴住居跡）

- SI-1301 カマド掘り方出土状況 (南から)
- SI-1302 (南から)
- SI-1303 (南から)
- SI-1304 (南から)
- SI-1304 出土状況 (南から)
- SI-1305 (西から)
- SI-1305 カマド (東から)
- SI-1305 ステップ状施設 (北から)

図版三三 遺構（掘立柱建物跡）

- SB-82 (南から)
- SB-83 (南西から)

SB-84 (南から)

SB-82・84 (南から)

SB-86 (南から)

SB-87 (南から)

SB-98 (南から)

SK-718 出土状況 (東から)

図版三四 遺構（掘立柱建物跡）

- SB-97 (西から)
- SB-1008 (北から)
- SB-1012 (南から)
- SB-1021 (南から)
- SB-1022 (南から)
- SB-1026 (南から)
- SB-1027 (北から)
- SI-1028・1029 (南から)

図版三五 遺構（円形周溝遺構・井戸状遺構）

- SX-1190 (南から)
- SX-1190 溝内土坑 (北から)
- SE-801・802 (南から)
- SE-801・802 断ち割り (西から)
- SE-803 (南から)
- SE-803 断ち割り (北から)
- SE-804 (南から)
- SE-804 断ち割り (北から)
- SE-780 (南から)
- SE-780 断ち割り (北から)

図版三六 遺構（円形周溝遺構・井戸状遺構）

- SE-1215 (南から)
- SE-1215 断ち割り (南から)
- SE-592 (南から)
- SE-592 断ち割り (南から)
- SE-686 断ち割り (西から)
- S-1239・1269 断ち割り (東から)
- S-1239・1269 断ち割り完備 (東から)
- SE-1263・1264・1265 断ち割り完備 (南から)

図版三七 遺構（井戸状遺構・土坑・ピット状遺構）

- SE-856 (西から)
- SE-877 (東から)
- SE-820 (北から)
- SK-1037 出土状況 (北東から)
- SK-1216 (東から)
- SK-1224 (東から)
- S-770 出土状況 (南から)
- S-1325 出土状況 (南から)

図版三八 遺構（溝状遺構）

- SX-43 (南から)
- 低地A断面 (L38・39 グリッド・北東から)
- 低地A調査風景 (南東から)
- 低地A分析サンプル採取作業 (南西から)
- SD-101 (東から)
- SD-101 断面 (西から)
- SD-101 ウマの南出土状況 (西から)
- SD-102・106 分析サンプル採取状況 (西から)

図版三九 遺構（溝状遺構・井戸状遺構）

- SD-102・106 (東から)
- SD-102・106 断面 (北東から)
- SD-600 (西上空から)
- SD-600 断面 (南から)
- SD-600 遺物ブロック 2 出土状況 (北から)
- SD-1050 (北から)
- SE-283 (南から)
- SE-283 断ち割り (南から)

図版四〇 遺構（井戸状遺構）

- SE-331 (南から)
- SE-331 断ち割り (南から)
- SE-365 (南から)

SE-365 断ち割り (南から)
 SE-590 (南から)
 SE-590 断ち割り (南から)
 SE-591 (北から)
 SE-591 断ち割り (南から)
 図版四一 遺構 (土坑)
 SK-1188 (西から)
 SK-1188 作業風景 (北から)
 SX-37 (南東から)
 SK-353 (東から)
 S-593 (東から)
 S-593 断面 (南西から)
 S-1371 (西から)
 H13 年度調査参加者
 図版四二 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-01・02・03
 図版四三 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-04・05・06・08
 図版四四 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-08・09・10・11・12・14
 図版四五 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-14・15・16
 図版四六 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-19・21・23・25・26・27・28・29
 図版四七 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-29・30・31
 図版四八 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-31・34
 図版四九 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-35・38・40・41・44
 図版五〇 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-45・46・47・59
 図版五一 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-59・65・67・70・71・72・73・75
 図版五二 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-74・77・76・88・89・90・91・92・95・1000
 図版五三 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-1001・1002・1003・1004・1006・1010
 図版五四 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-1005・1007・1009・1014
 図版五五 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-1014
 図版五六 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-1014・1015・1017・1018・1020・1023
 図版五七 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-1019・1024
 図版五八 遺物 (竪穴住居跡)
 SI-1024・1301
 図版五九 遺物 (竪穴住居跡・竪穴状遺構)
 SI-1302・1303・1304・SX-43
 図版六〇 遺物 (円形周溝遺構・掘立柱建物跡等)
 SX-1190・SB-98・SK-1037・1216・1224・SX-970・971・
 S-770・1325・旧石器
 図版六一 遺物 (溝状遺構・石製品・土製品等)
 SD-600・973・1050・SX-53・土製品・石製品・鉄滓・墨書土器・
 金属製品
 図版六二
 金属製品

第1章 調査の経緯

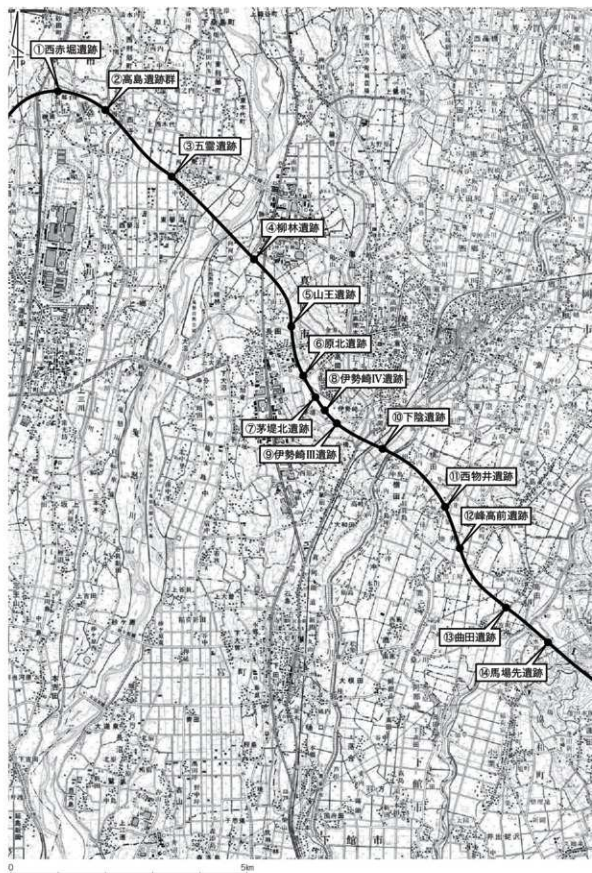
第1節 調査に至る経緯

北関東自動車道(路線名「北関東自動車道高崎水戸線」)は、群馬県高崎市から茨城県ひたちなか市に至る延長約150kmの国土開発幹線自動車道である。群馬、栃木、茨城3県の主要都市並びに国際港常陸那珂港を結ぶとともに、上信越自動車道や中部横断自動車道と一体となり、東京から100km～150km圏を環状に結ぶ「関東環状道路」を形成する高速道路である。関東地方における高速道路網の強化により各主要都市の交流の促進や地域の総合発展の基盤施設としての役割が期待されている。栃木県内は足利市、佐野市、岩舟町、栃木市、都賀町、壬生町、下野市、宇都宮市、上三川町、真岡市、二宮町の6市5町、約58kmを通過する。このうち、東北自動車道(栃木都賀J.C.T)から新4号国道(宇都宮上三川I.C)までの約19kmは優先着工区間とされ、平成12年7月27日に開通している。東北自動車道重複区間及び優先着工区間の両側に位置する上三川～二宮間、足利～岩舟間においては平成3年2月8日都市計画決定、平成3年12月3日基本計画決定、平成8年12月27日整備計画決定をへて、群馬県境～足利は平成9年12月25日、真岡～茨城県境は平成10年4月8日にそれぞれ施行命令が出されている。

日本道路公団東京第一建設局(当時、以下公団)長は施行命令を受け、平成9年7月1日、栃木県土木部高速道路対策室(当時、以下県高対室)を経由し県教育長あて路線内の埋蔵文化財について照会した。そこで栃木県教育委員会事務局文化課(以下県文化課、平成11年度より県文化財課)は、平成9年7月8日から18日にかけて所在調査を実施した。この調査により周知の埋蔵文化財包蔵地を中心に上三川～二宮間で14箇所、岩舟～足利間で18箇所の調査必要箇所が確認された。結果は平成10年3月18日付で公団局長あて回答され、あわせて県高対室長あて報告された。

これら調査必要箇所の取り扱いについて、県文化課、公団、県高対室による協議の結果、工事の影響を免れない範囲について記録保存のための発掘調査を実施することとなった。そのため、平成13年1月15日、公団局長、県教育長及び発掘主体者の財団法人とちぎ生涯学習文化財団(以下財団)理事長により「北関東自動車道(足利～岩舟、上三川～二宮)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」(以下協定書)が締結された。この協定書において、上記の32箇所について現地発掘調査期間は平成18年3月まで、整理作業・報告書作成期間は平成19年3月まで、費用概算額は2,167,967,000円とされた。また、平成12年度は上三川～二宮間の柳林遺跡、西物井遺跡、峰高前遺跡について調査に着手することとなり、協定書に基づき公団局長及び財団理事長間で「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」が締結され、北関東自動車道上三川～二宮間及び足利～岩舟間の発掘調査が開始された。

その後、財団は文化財課の指導にもとづき発掘調査業務を実施してきたところ、工事予定の変更や新たな埋蔵文化財包蔵地の確認等により協定書中全体実施計画等の見直しが必要となった。そのため、平成18年3月29日付、東日本高速道路株式会社(平成17年10月1日、日本道路公団の民営化に伴い設立：以下東日本高速(株))関東支社宇都宮工事事務所長、県教育長及び財団理事長により「北関東自動車道(足利～岩舟、上三川～二宮)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する変更協定書(第1回変更)」が締結された。この協定においては新たに4箇所を加えた36箇所(壬生P.A新規建設に伴う都賀～上三川間の谷向遺跡を含む)について、現地発掘調査は平成23年3月まで、また整理作業、報告書作成は平成24年3月までの期間、



第1図 北関東自動車道（上三川～二宮間）関連の遺跡（S=1/80,000）

第1表 北関東自動車道(上三川～二宮間)埋蔵文化財発掘調査箇所一覧

No.	遺跡名	所在地	当初調査 対象面積 (㎡)	調査区分	調査 面積 (㎡)	遺 跡 の 概 要
1	西赤堀遺跡 (18年度報告)	河内郡上三川町 西汗	27,100	発掘	24,260	平成13～15年度本調査。縄文時代住居跡1軒・古墳時代住居跡59軒・古墳2基など。
				確認	630	対象面積:5,000㎡
2	高島遺跡群 (19年度報告)	河内郡上三川町 西汗	29,000	発掘	10,500	平成13・14年度本調査。古墳～平安時代住居跡18軒・掘立柱建物跡11棟など。
				確認	930	対象面積:8,300㎡
				試掘	1,085	対象面積:17,100㎡
3	五雲遺跡	河内郡上三川町 東汗	10,400	発掘	9,385	平成14・15年度本調査。古墳～平安時代住居跡19軒・溝跡30条など。
				試掘	1,266	対象面積:10,400㎡
4	柳林遺跡	真岡市 柳林・龜山	9,200	試掘	369	平成12年度試掘調査(対象面積:9,200㎡) 遺構なし。
5	山王遺跡	真岡市長田	11,000	試掘	1,018	平成14・16年度試掘調査(対象面積:11,000㎡) 遺構なし。
6	原北遺跡	真岡市西高岡木	6,600	発掘	1,500	平成15年度本調査。時期不明の溝2条。
				試掘	570	対象面積:5,900㎡
7	茅堤北遺跡	真岡市伊勢崎	3,300	試掘	804	平成14年度試掘調査(対象面積:3,300㎡) 遺構なし。
8	伊勢崎IV遺跡	真岡市伊勢崎	7,900	試掘	620	平成14年度試掘調査(対象面積:7,900㎡) 遺構なし。
9	伊勢崎III遺跡	真岡市伊勢崎	10,500	発掘	8,100	平成15年度本調査。旧石器時代遺物ブロック・古墳～平安時代住居3軒など。
				確認	404	対象面積:2,700㎡
10	下陰遺跡	真岡市八木岡	64,700	発掘	41,183	平成13・14・17・18年度本調査。縄文時代住居跡5軒・古墳～平安時代住居8軒・古墳2基・中世遺構(方形竪穴等)約5,000基など。
				試掘	2,822	対象面積:37,476㎡
11	西物井遺跡	芳賀郡二宮町 物井	26,800	発掘	26,350	平成13～17年度本調査。古墳～平安時代住居跡73軒・方形周溝遺構9基・中近世土坑等320基・溝104条・ピット約1500基など。
				確認	1,047	対象面積:6,900㎡
12	峰高前遺跡 (当報告書)	芳賀郡二宮町 物井	17,600	発掘	13,780	平成13～15・17年度本調査。古墳～平安時代住居跡104軒・掘立柱建物跡22棟・溝27条・井戸状遺構・円筒形土坑62基など。
				確認	2,097	対象面積:22,900㎡
13	曲田遺跡	芳賀郡二宮町 高田	22,150	発掘	28,310	平成13～16年度本調査。古墳時代住居跡34軒・古墳2基など。
				確認	2,592	対象面積:22,150㎡
14	馬場先遺跡	芳賀郡二宮町 水戸部	10,600	発掘	10,600	平成15年度本調査。奈良・平安時代住居跡5軒など。
				試掘	530	対象面積:9,000㎡

費用概算額は3,302,692,000円と変更された。

なお、平成19年3月には、上三川～二宮間における14箇所の現地発掘調査が全て終了した。また、平成20年3月までに足利～岩舟間及び都賀～上三川間における22箇所の現地発掘調査も終了する予定である。整理報告書作成作業においては、全ての遺跡について平成23年度までに報告書を刊行する予定である。

峰高前遺跡は平成9年に実施された路線内の所在調査により新規に確認された埋蔵文化財包蔵地で、二宮町物井地内に所在する。平成12年度の確認調査に続き発掘調査は平成13年度から17年度にかけて実施したが、路線内にある他遺跡の発掘調査と併せて断続的に行われたため、実際の調査期間は1年11ヶ月である。整理・報告書作成作業は、発掘調査に引き続いて平成15年度下半期から平成19年度上半期まで断続的に、のべ3年間にわたって実施した。

第1章 調査の経緯

調査組織

平成12年度

埋蔵文化財センター所長	山内 正吉	
管理部長	中田 清	
管理部管理担当 主任	板井 恭子	
主幹兼調査部長	大金 宣晃	
大規模調査班班長	橋本 浩則	
北関東道路調査担当総括	藤田 典夫	
主査 鈴木 元	主査 塚本 節也	主査 進藤 敏雄
主任 岩中 隆	主任 安本 真一	主任 亀田 幸久
技師 安藤 実保	技師 平久保直希	技師 合田恵美子
嘱託調査員	大島美智子	

平成13年度

埋蔵文化財センター所長	望月 守		
管理部長	中田 清		
管理部管理担当 主任	板井 恭子		
主幹兼調査部長	大金 宣晃		
大規模調査班班長	橋本 浩則		
北関東道路調査担当総括	藤田 典夫		
主査 永岡 正美	主査 賀川 倫大	主査 塚本 節也	
主査 進藤 敏雄	主査 森口 尚志	主任 仲山 英樹	
主任 池田 敏宏	主任 田代 己佳	主任 安本 真一	
主事 横田 正宏	技師 合田恵美子	主事 吉村 英子	
調査補助員	玉橋さやか、 柳 陽子		

平成14年度

埋蔵文化財センター所長	望月 守	
管理普及部長	中田 清	
管理部管理担当 主任	板井 恭子	
主幹兼調査部長	大金 宣晃	
大規模調査班班長	橋本 浩則	
北関東道路調査担当総括	藤田 典夫	
主査 永岡 正美	主査 賀川 倫大	主査 塚本 節也
主査 森口 尚志	主査 仲山 英樹	主査 西田 知生
主任 江原 英	主任 池田 敏宏	主任 田代 己佳
主任 安本 真一	主任 亀田 幸久	主任 塚田 浩久
主任 横田 桂	技師 安藤 実保	技師 合田恵美子
主事 吉村 英子		
嘱託調査員	平山 紋子 (7/1～3/31)	
調査補助員	玉橋さやか、 平山 紋子 (4/1～6/30)	

平成15年度

埋蔵文化財センター所長	藤原 洋	
管理普及部長	中田 清	
管理部管理担当 主任	板井 恭子	
主幹兼調査部長兼大規模調査班班長	橋本 浩則	
北関東道路調査担当総括	藤田 典夫	
主査 芹澤 清八	主査 賀川 倫大	主査 塚本 節也
主査 森口 尚志	主査 鈴木 泰浩	主査 西田 知生
主任 池田 敏宏	主任 田代 己佳	主任 亀田 幸久
主任 横田 桂	技師 合田恵美子	主事 吉村 英子
嘱託調査員	平山 紋子 (4/1～8/31)	
調査補助員	玉橋さやか、 鈴木 芳英、 平山 紋子 (9/1～3/31)	

平成16年度

埋蔵文化財センター所長	藤原 洋	
管理普及部長	大田原 博	
管理部管理担当 主任	板井 恭子	
主幹兼調査部長兼大規模調査班長	橋本 浩則	
北関東道路調査担当係長	藤田 典夫	
主査 芹澤 清八	主査 塚本 節也	主査 西田 知生
主査 中村 享史	主任 池田 敏宏	主任 田代 己佳
主任 横田 桂	主任 吉田 哲	技師 合田恵美子
調査補助員	玉橋さやか、平山 紋子、鈴木 芳英	

平成17年度

埋蔵文化財センター所長	藤原 洋		
管理部長	大田原 博		
管理部管理担当 主任	板井 恭子		
主幹兼調査部長	橋本 浩則		
大規模調査班班長兼北関東道路調査担当サブ	川原 由典	山内 英樹	
主査 芹澤 清八	主査 塚本 節也	主査 仲山 英樹	
主査 西田 知生	主査 中村 享史	主査 藤原 浩志	
主査 田代 己佳	主任 池田 敏宏	主任 江原 英	
主任 横田 桂	主任 吉田 哲	主任 宮田 宣浩	
主任 合田恵美子			
嘱託調査員	玉橋さやか、 鈴木 芳英		
調査補助員	平山 紋子、 村田 沙織		

平成18年度

埋蔵文化財センター所長	藤原 洋		
管理部長	大田原 博		
管理部管理担当 主任	板井 恭子		
調査部長	川原 由典		
北関東道路調査担当主幹	初山 孝行		
主査 進藤 敏雄	主査 塚本 節	主査 仲山 英樹	
主査 中村 享史	主査 伊藤 留二	主査 高野 鉄哉	
主査 田代 己佳	主査 江原 英	主査 磯 寿人	
主任 横田 桂	主任 今平 昌子	主任 亀田 幸久	
主任 吉田 哲	主任 宮田 宣浩	主任 合田恵美子	
主事 峰崎 武昭			
嘱託調査員	田村 雅樹	玉橋 さやか	鈴木 芳英
調査補助員	長濱 健一	村田 沙織	

平成19年度

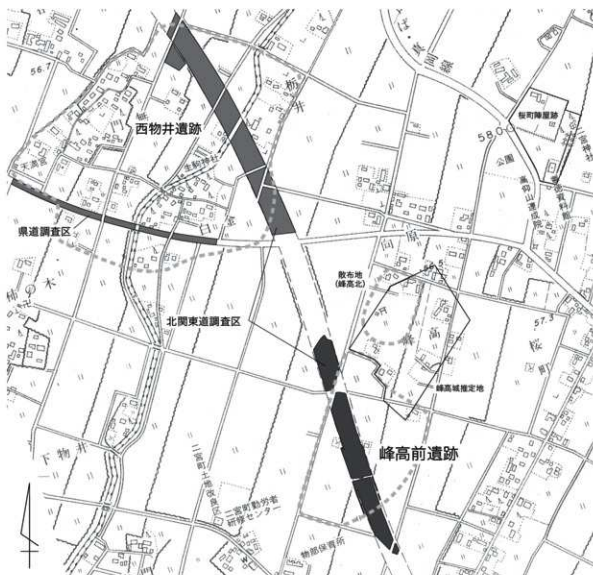
埋蔵文化財センター所長	藤原 洋		
管理部長	安西 和雄		
管理部管理担当 主任	板井 恭子		
調査部長	川原 由典		
北関東道路調査担当副主幹	初山 孝行		
主査 仲山 英樹	主査 藤原 浩志	主査 田代 己佳	
主査 池田 敏宏	主任 合田恵美子	主事 峰崎 武昭	
嘱託調査員	田村 雅樹		

第2節 調査の経過と方法

(1) 確認調査の経過

平成12年度に実施した峰高前遺跡の確認調査では、調査対象範囲 17,600 m²のうち約7%にあたる 1,339 m²を掘削した(第3図)。確認トレンチは未買収地を除く調査対象範囲に、現道に沿って20mおきに2mの幅で11本設定し、ローム上面まで掘削を行った。その結果、対象範囲の北側に設定したトレンチ1～5で、竪穴住居跡が17軒確認された。対象範囲の南側に設定した6本のトレンチのうち、トレンチ6・8では土師器・須恵器が含まれる溝状遺構が確認された。また、トレンチ10では遺構は確認されなかったが、遺物の散布が認められた。さらに南のトレンチ7・9・11では遺物・遺構共に確認されなかった。

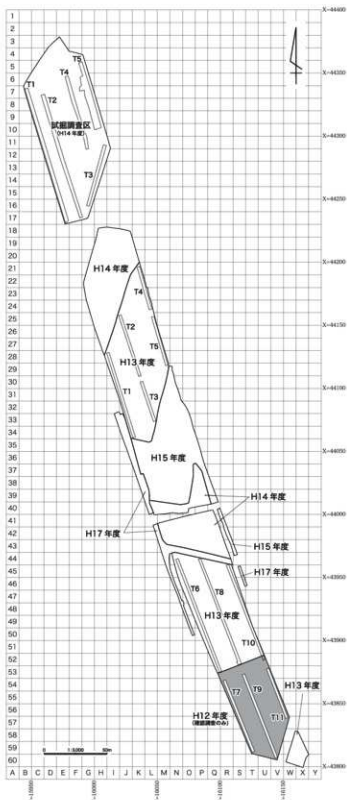
以上の結果を受けて、峰高前遺跡の取り扱いについて協議が行われ、遺構・遺物が認められなかった部分(第3図網かけ部分)を除き、埋蔵文化財センターで本調査を実施することとした。また、未買収地につい



第2図 峰高前遺跡調査区の位置 (S = 1/10,000)

ては周辺の遺構確認状況や、現地表面でも遺物の散布が認められることから、確認調査は行わずに次年度以降本調査を行うこととした。さらに、確認調査範囲の北端でも堅穴住居跡が確認され、遺跡の範囲がさらに北側に延びることが予想された。そのため、遺跡の範囲を確定するために、隣接する北側の路線内（第3図平成14年度試掘調査範囲）についても次年度以降試掘調査を行う方向で、関係各機関と調整することとした。

北側路線内の試掘調査対象範囲については、平成14年度上半期の本調査と同時に試掘調査を行う計画だったが、トレンチを掘削した直後に湧水により調査が不可能となった。よって、14年度下半期の本調査時にあらためて調査を行うこととした。試掘トレンチは現道に沿って約10mおきに2mの幅で設定したが、調査区の中央に溜め池があったため、トレンチ2と4の間はやや広めに開いている。トレンチをローム上面まで掘削し、精査した結果、トレンチ2・3・5で時期不明の土坑15基とビット状遺構10基が確認された（第3章第5節時期不明の遺構参照）。また、調査区の大部分が低地であり、遺構はG12グリッド付近にわずかに残る台地上の限られた部分にのみ確認されていることが明らかとなった。この結果をうけて対応を協議した結果、遺構・遺物がこれ以上広がる可能性は少ないと判断し、トレンチ内のみ調査を行い本調査は実施しないこととした。



第3図 峰高前遺跡調査区及びトレンチ配置図

(2) 発掘調査の方法

発掘調査はまず、重機による表土除去から行った。確認調査の結果、ローム土上面まで掘削すると堅穴住居跡の壁面がほとんど残らないことがわかっていったため、それよりも上位のローム漸移層中で遺構を確認するように努めた。

第2表 平成12年度確認トレンチ概要

トレンチNo.	幅 (m)	長 (m)	面積 (㎡)	調査結果
トレンチ1	2.0	69.0	138.0	古墳時代以降竪穴住居跡・遺物多数
トレンチ2	2.0	56.5	113.0	古墳時代以降竪穴住居跡・遺物多数
トレンチ3	2.0	32.5	65.0	古墳時代以降竪穴住居跡・遺物多数
トレンチ4	2.0	40.5	81.0	古墳時代以降竪穴住居跡・遺物多数
トレンチ5	2.0	39.0	78.0	古墳時代以降竪穴住居跡・遺物多数
トレンチ6	2.0	94.0	188.0	時期不明の溝・遺物
トレンチ7	2.0	59.5	119.0	遺構・遺物なし
トレンチ8	2.0	88.0	176.0	時期不明の溝・遺物
トレンチ9	2.0	69.0	138.0	遺構・遺物なし
トレンチ10	2.0	79.0	158.0	遺物少量
トレンチ11	2.0	41.0	82.0	遺構・遺物なし

第3表 平成14年度試掘トレンチ概要

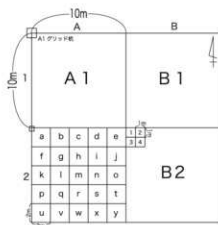
トレンチNo.	幅 (m)	長 (m)	面積 (㎡)	調査結果
トレンチ1	2.0	92.0	184.0	遺構・遺物なし
トレンチ2	2.0	90.0	180.0	時期不明の遺構
トレンチ3	2.0	42.0	84.0	時期不明の遺構
トレンチ4	2.0	48.0	96.0	遺構・遺物なし
トレンチ5	2.0	50.0	100.0	遺構・遺物あり (時期不明)

(拡張114.0)

いたため、煩雑さを避けるため、平成14年度以降の調査でも日本測地系によるグリッドを使用し、本報告書においてもそのまま掲載している。

重機による表土除去後、ジョレンによる遺構確認作業を行い、確認状況を図面で記録した。この確認状況図に基づいて竪穴住居跡・掘立柱建物跡を中心に主な遺構にはS-1～100の数字を予め割り振った。また、S-101番以降は土坑・溝・ピットなどの遺構に割り振り、こちらは調査順に発番することとした。当初、主な遺構は100を超えることがないと予測していたためこのように発番を行ったが、次年度以降に予想以上の竪穴住居跡が確認されたため、さらにS-1000から1030、S-1301から1305までを竪穴住居跡・掘立柱建物跡の番号として発番した。全体の遺構番号は、整理作業時の振り替えを含めS-1400まで発番している。

遺構確認作業後、各遺構の掘り下げを順次行った。竪穴住居跡は十字に断面観察用のベルトを設定し、確認面で住居プランがはっきりしない遺構については、このベルトに沿ってトレンチ状に掘り下げ、床面と壁を確認した後に覆土の掘り下げを行った。竪穴住居全体が掘りあがった段階で平面図を作成し、レベル



第4図 グリッド基準図

表土除去後、国土座標第IX系に基づき発掘調査区内に10m×10mの大グリッドを設定し、東西方向に西から東へ向かって大文字アルファベット、南北方向に北から南へ向かって算用数字を割り当て、その組み合わせをグリッド名とした(第3図)。また、必要に応じてさらにグリッド内を2m×2mの小グリッドに分け、北西から南東に向かって順に小文字アルファベットを割り当てた。遺構確認面や遺構外の遺物は、大グリッドを基準に取り上げた。なお、国土座標系は平成14年4月に日本測地系から世界測地系に移行したが、峰高前跡では平成13年度に日本測地系に基づいてグリッドを設定して

を行った。カマドは住居とは別に、平面図及び十字に断面図を作成した。柱穴や貯蔵穴については半裁し、断面図及びエlevation図を作成した。出土遺物については床面上あるいは覆土中の大型の遺物を中心として平面図に位置とレベルを記録し、その他の遺物はベルトによって分けられた4つの区ごとにとりあげた。その他の遺構は基本的に半裁(溝状遺構はベルトを設定)し、断面図を作成した。平面図はなるべくグリッド毎にまとめて作成した。各遺構の平面図は基本的に1/20の縮尺で1m×1mのメッシュにより測量したが、平成17年度調査ではメッシュを設定することができなかったため、平板による測量を行った。調査区内の低地についてはトレンチを掘り下げて、土層の堆

第1章 調査の経緯

積状況を確認した。調査区全体の地形測量も検討したが、後世の削平により特に台地部分の地形が大きく損なわれていると判断し、レベルングのみ行い、等高線図は作成しなかった。

写真撮影は35mmモノクロとリバーサルフィルムを用い、基本的に遺構断面図、遺物の出土状況、完掘状況について撮影した。また、一部の竪穴住居跡の完掘状況は、6×7モノクロによる撮影もあわせて行った。

(3) 発掘調査(本調査)の経過

本調査は平成13年度4月から平成17年度6月までのべ1年11ヶ月間に渡って実施した。以下に、調査の概要及び発掘調査日誌抄としてその経過を記す。

平成13年度

平成13年度は、本調査対象地区のうち宅地の残る箇所を除く6,450㎡の本調査を行った。その結果、竪穴住居跡59軒、溝跡20条、土坑約270基などが発見された。

4月1日～12日	発掘調査準備。
4月13日	現地にて道路公団と協議。
4月17日	日本道路公団宇都宮工事事務所にて公団と協議。
4月23日	現場事務所設営。
4月23日～5月14日	重機による表土除去。機材等搬入。
5月11日～15日	基準杭設定。
5月21日～29日	遺構確認作業、遺構確認全体図作成。
5月30日～11月15日	H13 北側調査区遺構調査。
11月19日～27日	H13 南側調査区遺構調査。
11月28日	航空写真撮影。
11月29・30日	遺跡見学会準備。機材等撤収。
12月1日	遺跡見学会開催(213名参加)。現場事務所撤去。



現地説明会(平成13年12月1日)

平成14年度

平成14年度は、本調査対象地区のうち宅地の残る箇所を除く4,058㎡の本調査を行った。調査は調査区の買収状況により3ヶ月ずつのべ6ヶ月にわたって実施した。その結果、竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡13棟、溝跡1条、土坑約340基などが発見された。

4月1日～11日	発掘調査準備。
4月12日	日本道路公団宇都宮工事事務所にて道路公団と協議。
4月15日～17日	重機による試掘調査区のトレンチ掘削。
4月18日～30日	重機による表土除去及び平成13年度調査区の井戸状遺構断ち割り調査。 現場事務所設営、機材等搬入。
5月1日・2日	基準杭設定。
5月7日・8日	遺構確認作業、遺構確認全体図作成。
5月9日～14日	H14 北側調査区遺構調査(水没したため調査中断)。
5月15日～6月4日	H14 南側調査区遺構調査。
6月5日・6日	H14 南側調査区航空写真撮影。

6月7日～24日	H14 北側調査区遺構調査。遺物洗浄・注記、図面整理。
6月25日～28日	機材等撤収。(一時中断)
10月1日～4日	調査準備、機材等搬入。
10月7日～9日	重機による表土除去及びH14 南側調査区井戸状遺構断ち割り調査。
10月10日	基準杭設定、遺構確認作業、 遺構確認全体図作成。
10月11日～11月8日	H14 中央調査区遺構調査。
11月9日～12月10日	H14 北側調査区遺構調査。
12月11日～13日	H14 北側調査区・中央調査区航空写真撮影。
12月16日～18日	発掘機材等撤収。
12月19日～26日	重機による試掘調査区埋め戻し。



平成14年度調査風景

平成15年度

平成15年度は、本調査対象地区のうち3,400㎡の本調査を行った。その結果、竪穴住居跡22軒、堀立柱建物9棟、溝跡4条、土坑・ピット状遺構約270基が発見された。当年度の調査を持って、峰高前遺跡における北関東自動車道本線部分13,908㎡の全ての発掘調査が終了した。隣接する側道部分に関しては、本線部分の調査結果を基に本調査が必要な範囲を確定し、調査の実施時期などは次年度以降に公団および二宮町教育委員会と協議を行うこととした。

4月1日～11日	発掘調査準備。
4月14日～16日	重機による表土除去(宅地部分除く)。
4月17日	基準杭設定。
4月21日・22日	遺構確認作業、遺構確認全体図作成。
4月23日～5月8日	低地部分トレンチ調査。
5月6日～7月4日	宅地部分を除く調査区の遺構調査。
7月8日～16日	宅地部分表土除去。
7月15日～17日	遺構確認作業、遺構確認全体図作成。
7月22日～25日	低地部分トレンチ調査。
7月28日～9月16日	宅地部分遺構調査。
9月17日	航空写真撮影。
9月22日	地元住民対象遺跡見学会(23名参加)
9月24日～30日	機材等撤収、現場事務所撤去。
10月29日～31日	H14年度試掘トレンチ埋め戻し、 井戸状遺構断ち割り調査。



遺跡見学会(平成15年9月22日)



マイチャレンジ事業(平成15年11月)

平成17年度

平成17年度は、本線部分に隣接する側道部分630㎡の本調査を行った。その結果、竪穴住居跡10軒(前年度までに一部調査5軒含む)、溝跡2条、土坑・ピット状遺構約80基が発見された。当年度の調査をもって、本線部分および側道部分13,780㎡の本調査がすべて終了した。

第1章 調査の経緯

4月1日～28日	発掘調査準備。
4月13日～18日	現地にて公団、二宮町教育委員会と協議。
5月9日・10日	重機による表土除去、遺構確認作業。
5月11日	基準杭設定。
5月11日～6月8日	遺構調査。
6月9日	航空写真撮影実施。
6月10日～15日	機材等撤収。
6月16日～22日	調査区埋め戻し。
6月23日～30日	現地調査終了に係る事務処理。



平成17年度調査風景

(4) 整理作業の経過

発掘調査で記録された情報は、遺構図面650枚、35mmモノクロ及びリバーサルフィルム35枚撮り各325本、6×7モノクロ12枚撮り33本、遺物収納箱200箱分の土師器・須恵器を中心とする出土遺物である。これらの整理作業、報告書作成は平成15年度下半期から平成16年度を北関東自動車道発掘調査事務所（北関東本部棟）、平成18年度から19年度上半期までを埋蔵文化財センターで行った。遺物の洗浄や写真整理、図面修正などの基礎整理作業はなるべく発掘調査と同時に行うように努めた。遺物の洗浄、注記については平成14年度調査分までを発掘現場で行った。

平成15年度は北関東本部棟で整理作業を行った。平成15年度調査分の遺物洗浄、注記作業を行った後、12月から接合作業を開始し、同時に報告書掲載遺物と不掲載遺物を分類した。また、15年度調査分の写真整理を併せて行った。

平成16年度も北関東本部棟で整理作業を行った。遺物の実測・トレース作業が中心で、同時に遺物観察表の作成も行った。平成16年度までに作成した遺物実測図は、スキヤニングによるデジタル化を委託業務として実施した。また、1月以降にコンピュータによる遺構図のトレース作業を開始した。あわせて遺構一覧表を作成した。

1年間の中断の後、平成18年度は17年度調査分の基礎整理作業から開始した。5月末で遺物の実測・トレースまでが終了したため、続いて写真図版掲載遺物を樹脂で補強する作業を行った。また、6月からコンピュータによる遺構図トレース作業を再開した。トレース作業は版下作成も含め、3月末で終了した。これらの作業と並行して原稿執筆を始め、3月に遺物写真図版の作成を委託業務として実施した。

平成19年度は原稿執筆と、コンピュータによる遺構図以外の版下作成作業を中心に、あわせて編集作業を進めた。8月は原稿執筆、編集作業が終了し、入稿を行った。その後、校正作業とあわせて遺物及び遺構図面、写真等の収納を行った。

平成19年9月刊行の本報告書を持って、北関東自動車道建設に伴う峰高前遺跡の発掘調査は全て終了した。



遺物実測作業



遺物復元作業



コンピュータトレース作業

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

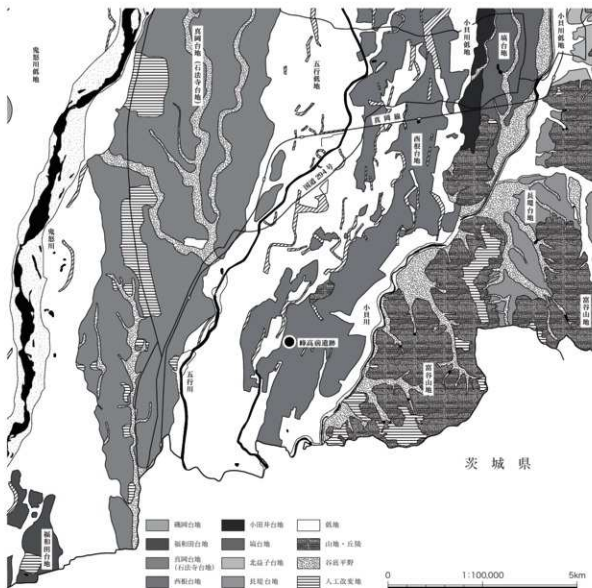
峰高前遺跡は、栃木県南東部の芳賀郡二宮町物井地内に所在する。二宮町の中心部である久下田駅周辺からは北東へ約4km、真岡市街からは南東へ約4kmである。周辺は昭和20年代から数回にわたって行われた圃場整備事業により水田化が進み、のどかな田園風景の広がる平地となっている。

栃木県の地形は大まかに、東部山地（八溝山地）と西部山地（帝釈山地・足尾山地）、及びその間にある中央部平地に三分される。中央部平地は、南流する河川の浸食によって形成された南北に細長い河岸段丘面と沖積低地からなる。堆積した火山灰層（関東ローム層）の層序によって宝積寺面、宝木面、田原面、沖積低地の相島面に区分されているが、峰高前遺跡は田原面の下位面に相当する西根台地の南西端に位置している。ここは関東平野と八溝山地の境目にあたり、南北に細長い台地と低地、河川が繰り返される地形となっている。周辺の主要河川としては台地の西側に五行川、台地東部に中央部低地と東部山地を分ける小貝川があり、ほぼ並行して南流している。五行川は茨城県筑西市内（旧下館市）で小貝川と合流し、小貝川は取手市内で利根川と合流する。

遺跡が位置する台地面は五行川や小貝川及びその支流によって細かく開析されているが、水田化が進んでいることもあり、現在ではそのような微地形をうかがうことはできない。峰高前遺跡や隣接する西物井遺跡の調査によって、圃場整備が行われる以前の地形が部分的に確認されているが、その成果によれば遺跡周辺は南北に長い小規模な低台地と埋没谷、低地が交互に連なる地形であると予測される。低台地の標高は西物井遺跡で約58m、峰高前遺跡で約55～56m、さらに南の曲田遺跡で約52mと、南に行くほど低くなる。周辺の低地の標高は、小貝川低地が55m、五行川低地が53mとなっており、遺跡が位置する低台地との標高差はほとんどないと言ってよい。峰高前遺跡では台地と低地の境はなだらかに傾斜しており、崖となって急激に落ち込むといった状況が確認できない（第3章第5節低地の調査参照）ことから、遺跡周辺の低台地は低地の中に残された微高地状を呈することがわかる。一方、西物井



第5図 峰高前遺跡の位置



第6図 周辺の地形図 (S=100,000)

遺跡が位置する橋井・門無付近や市ノ塚遺跡が位置する高田周辺などは、このような低台地の中でも比較的安定した大規模な台地であると予測され、現在でも集落がまとまって存在している。特に市ノ塚遺跡ではローム層序が安定して確認されており、水被による粘土化が著しい本遺跡とは異なる状況も明らかとなっている。

参考文献

- | | | |
|-------------|----------------|-------|
| 栃木県史編纂委員会 | 1976『栃木県史』資料編 | 考古一 |
| 真岡市史編さん委員会 | 1984『真岡市史』第一巻 | 考古資料編 |
| 栃木県企画部資源対策課 | 1990『土地分類基本調査』 | 真岡 |
| 二宮町史編さん委員会 | 2006『二宮町史』資料編Ⅰ | 考古・中世 |

第2節 歴史的環境

二宮町では、五行川西岸の久下田地区を中心として古墳時代から近世にかけての遺跡が多く所在している。峰高前遺跡が位置する物部地区では、水田化が進んでいることもあって周知の遺跡は少ないが、近年行われた北関東自動車道建設や圃場整備事業に伴う発掘調査や確認調査、平成12年度に行われた二宮町史編さん室による遺跡分布調査により、多くの遺跡が新たに発見されている。ここでは、それらの調査成果をあわせて上で周辺の遺跡分布図を作成し、特に物部地区における各時代の概要についてまとめる。

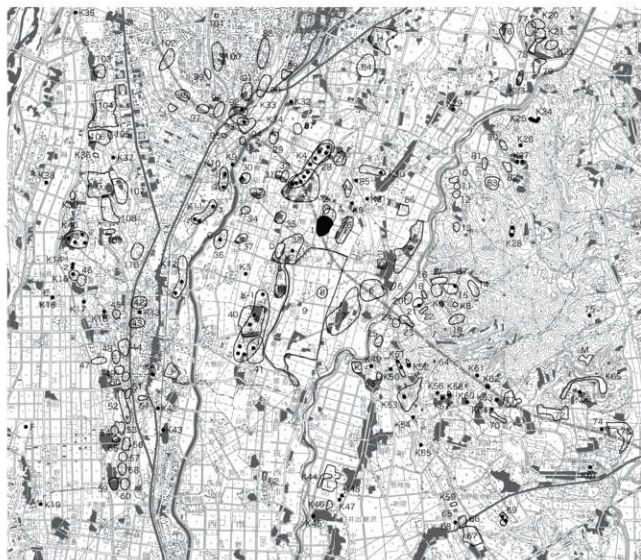
旧石器時代 町内では、物部地区を中心として4遺跡が確認されている。桑ノ川遺跡E地点(9)では、同一母岩と考えられる流紋岩製の撚器2点が、中世以降の溝状遺構覆土内から出土している。西物井遺跡(3)では珪質凝灰岩製の石刀、市ノ塚遺跡(4)では頁岩製のナイフ形石器がそれぞれ遺構外から出土している。峰高前遺跡でも、硬質頁岩製の撚器が古墳時代のSI-08 堅穴住居跡覆土内から出土している。このように、町内で出土した遺跡はいずれも層位を伴わない石器単体の出土であるが、隣接する真岡市東大島には県内最初の旧石器時代遺跡の調査が行われた磯山遺跡(85)があり、ナイフ形石器、彫器、局部磨製石斧などが出土している。また、真岡市伊勢崎の伊勢崎II遺跡(96)・伊勢崎III遺跡(97)では銅片のブロック及び礫群が調査されている。

縄文時代 町内では縄文時代の遺跡が非常に少なく、二宮町史編さん室の分布調査でも、土器片の集中が確認されたのは三谷の五軒家北(16)、五軒家南(15)の両遺跡のみである。草創期は、曲田遺跡(6)で柳葉形尖頭器が1点遺構外から出土している。早期は、市ノ塚遺跡で燃糸文期の堅穴住居跡8軒と、同時期の陥し穴状遺構が5基調査された。これらの遺構は、低地に向かって緩やかに下る台地縁辺部で確認されており、このような低位段丘面で早期の遺跡が確認されるのは極めて希である。また、水戸郡地内の山間部では、田戸下層式の尖底土器の底部破片が採集されている(二宮町2006)。採集地点付近は、北関東自動車道建設に伴う馬場先遺跡(23)の調査が行われているが、同時期の遺構は確認されていない。前期は二宮町史分布調査での破片資料の採集例が数例と、市ノ塚遺跡や曲田遺跡の調査区内にある低地の落ち際に破片が見つかったのみである。中期は、先にあげた五軒家北・五軒家南遺跡で中期前半から後期にかけての破片が多数採集されており、同時期の集落である可能性が高い。五行川流域では中内遺跡(30)で少量の破片が採集されている。後期では、西物井遺跡で堀之内式土器の破片と打製石斧が伴う遺物集中箇所が確認されている。また、加曾利B～後期安行式の土器片が横田地内小竈で多数採集されている。採集地点とされる箇所はすでに傾平を受けており、遺物は採集されていないが、採集地点北側に所在する一ツ橋遺跡(87)では同時期の破片が多数採集されていることから、一連の遺跡であると考えられる。このように、後期後半以降では、低地内にも遺跡が存在する可能性が高い。

弥生時代 町内では程島北遺跡(53)などで土器片が採集されたとされているが、実際に調査された遺跡はない。真岡市域では柳久保遺跡(77)、伊勢崎II遺跡で弥生時代後期の堅穴住居跡が確認されている。

古墳時代 町内では古墳群が多数確認されており、古墳の総数は80基を超える。墳丘が湮滅してしまったものも含め、町内の古墳については佐藤行哉による多くの記録が残されており、秋元陽光がそれらの記録に残された古墳の位置を現在の地図上にマッピングする作業を行っている(二宮町2006)。

古墳時代前期では、小貝川左岸が古墳の分布の中心となる。4～5世紀初頭の古墳の小貝川流域の各小地域における首長墓とされる前方後方墳は、山崎1号墳(K21)をはじめとして6基確認されている。また、市ノ塚



第7図 周辺の遺跡分布図 (S=1/80,000)

遺跡では方墳3基、西物井遺跡では方形周溝遺構9基が調査された。また、五行川流域の真岡市桶荷山遺跡(99)では方形周溝墓が5基、下陰遺跡(94)では前方後方墳1基と方墳2基が調査されている。当地域における集落遺跡は峰高前遺跡の他に市ノ塚遺跡があげられる。市ノ塚遺跡1区では、古墳時代前期の堅穴住居跡が約70軒確認されている。このような大規模な集落に対して、峰高前遺跡では7軒と、比較的小規模な住居群となる。集落規模の違いはあっても、低地と台地の境に住居が作られる傾向は共通しており、この時期から本格化するとされる低地開発と関連する集落のあり方とも見てとれる。

古墳時代中期になると、古墳の分布は小貝川流域から五行川流域へと変化していき、物部地区でも古墳の築造が減少する。調査された古墳としては、曲田遺跡で円墳と方墳1基ずつ、市ノ塚遺跡では前方後円墳1基があげられる。五行川流域では、芳賀郡最古の前方後円墳とされる大和田富士山古墳(K9)が築造されている。集落は前期同様、低地を望む台地縁辺部に営まれる傾向にある。物部地区では市ノ塚遺跡や曲田遺跡で当該時期の集落が確認されているのに対し、峰高前遺跡では確認されていないことから、集落は特に小貝川左岸域の一部に集中していると予測される。市ノ塚遺跡や曲田遺跡では剣形や勾玉などの石製模造品、蟹が入遺跡では鍛冶工房跡が調査されている。このことから、二宮町域ではこれらの手工業生産が古墳時代

中期に本格的に始まったと考えられる。

古墳時代後期になると遺跡数がさらに増加し、遺跡の立地も低地を望む台地縁辺部から台地全体へと広がっていく。峰高前遺跡ではこの時期の遺構が最も多く確認されている。物部地区では峰高前遺跡の他に西物井遺跡、市ノ塚遺跡、馬場先遺跡で当該時期の集落が確認されている。古墳の分布は引き続き五行川流域が中心となり、大規模な古墳群としては鹿地内の鹿古墳群 (K1)、真岡市若旅付近から二宮町上大曾付近にかけての上大曾古墳群 (K64)、大和田付近の大和田古墳群 (K10) などがあげられる。当該時期の集落は古墳群のそばに形成されると考えられており、峰高前遺跡周辺にも十三塚古墳群 (K4) や物井山ノ崎古墳群 (K5) などがあったとされているが、すでに湮滅している。また、鹿古墳群の周辺では遺物が多量に散布している地区が数カ所確認されており (38～41)、大規模な集落が存在する可能性がある。

奈良・平安時代 古代において、物部地区は下野国の芳賀郡物部郷に比定されている。特に、西物井遺跡で発見された当該時期の集落は物部郷の一部であると推定されている。峰高前遺跡でも奈良・平安時代の竪穴住居跡が29軒確認されており、西物井遺跡の集落との関連が伺える。また、市ノ塚遺跡や馬場先遺跡でも、小規模ながら当該時期の集落が確認されている。生産遺跡に関連して、峰高前遺跡で主体となるのは益子窯跡群で生産された須恵器だが、茨城県下の堀ノ内窯跡群も比較的至近距離にあり、本遺跡でもこれらの窯跡産の須恵器が出土している。

中世・近世 鎌倉時代以降、二宮町域は長沼氏、水谷氏、宇都宮・芳賀一族の支配下となり、これら領主間での勢力争いの舞台となった。町内では城館跡が5カ所あったとされるが、全て湮滅している。このうち、峰高前遺跡の北側にあったとされる峰高城推定地 (A) では、現在も豊田家墓所に五輪塔と土塁の一部と考えられる地影れが確認できる。昭和32年頃には、峰高城推定地そばにある観音堂脇の畑から、中世の瓦質土器を転用したと考えられる蔵骨器が3個見つかった (青木1964)。佐藤行哉による記録 (佐藤1935) では「東西一町三十間、南北一町餘 (此反別一町二反七畝十歩) 回字形をなし、大半耕地に化したるも今空堀の一部を存してゐる」とされていることから、規模は160m×100mほどであったと考えられる。この堀は第二次世界大戦中までは残っていたとされるが、現在では失われている。峰高前遺跡で確認されたSD-600溝状遺構がこの堀につながる可能性もあるが、確証は得られていない。

峰高前遺跡の北側には、小田原藩宇津家が桜町領を統治するために創設した板町陣屋跡 (N) がある。また、隣接する西物井遺跡では近世の墓域が確認されている。その他遺跡周辺では、視察による浄土真宗布教の中心となった高田山専修寺 (O)、その関連史跡である三谷庵跡がある。

註 二宮町史編さんに伴う分布調査の結果については、町史編さん室より資料の提供及び掲載許可を受けた。

参考文献

- 佐藤行哉 1935 『芳賀南部郷土誌』
 青木義勝 1964 「芳賀郡二宮町発見の土師系蔵骨器」『栃木考古学研究』No.7 栃木県考古学研究会
 山ノ井清人 1974 「程島A遺跡出土の古式土師器」『下野古代文化』創刊号 下野古代文化研究会
 栃木県 1976 『栃木県史』資料編・考古1 栃木県史編纂委員会
 真岡市 1984 『真岡市史』第一巻 考古資料編 真岡市史編纂委員会
 秋元陽光・斎藤 弘 1984 「芳賀郡二宮町大和田富土山古墳について」『栃木県考古学会誌』第8集 栃木県考古学会
 二宮町 2006 『二宮町史』史料編1 考古・古代中世 二宮町史編さん委員会
 藤田直也 2007 「第2章 遺跡の環境」『市ノ塚遺跡1』栃木県埋蔵文化財調査報告第303集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団

